

【課題研究 校内中間発表会】 質疑応答のポイント

プレゼンテーションでは、「発表」以上に「質疑応答」が重要。「質疑応答」が実りあるものになったかが、実はプレゼンの成否を分ける。「質疑応答」では、【質問側（聴衆）】と【回答側（発表者）】のいずれもが大切だが、このプリントでは、【質問側（聴衆）】に焦点を当てて、質問のポイントをまとめているので、ぜひ参考にしよう。

<聴衆の大原則（必ず守って!）>

- 1発表につき、一人1つ以上は必ず質問をすること。
- 単発の質問（一問一答）に終わらず、発表者とのやりとり・対話を心がけること。
- 質問は、非難・粗探しのためにするのではない。研究を“深める”ためにすること。
- 質問には、①“正しく”理解するための質問、②深めるための質問の2種類がある。

<①：“正しく”理解するための質問例>

聴衆の態度として最もよくないのが、「知ったかぶり・難しくてわからないから、黙っている」だ。発表者は内容をよく理解しているのに対して、聴衆は初めて聞く場合も多い。専門外の内容である場合も多い。わからないところがあるのは当然である。また、内容を正しく理解できていないのに、深い質問などできるはずがない。まずは、理解のための質問を遠慮なく!

- 「考察」の関係式は▲▲を表すと理解しましたが、正しいですか? 【理解の確認】
- ▲▲を調べるのに、■■ではなく、なぜ★★に着目したのですか? 【内容の深堀】
- A式からB式への式変形を、省略せずに説明してもらえますか? 【補足の依頼】
- ●枚目のスライドの表1の解釈を、もう一度説明してください。 【再説明の依頼】
- ★★について議論するのに、他に■■のデータはありますか? 【資料提示の依頼】
- 先行研究を教えてください。新規性はどこにありますか? 【資料提示の依頼】

<②：内容を深めるための質問例>

②の質問をして、発表者と対話しながら、研究内容を深めるための意見を出すことが「質疑応答」の目的である。①の質問を通じて研究内容が正しく理解できたら、ぜひ②の質問までできるようにしよう。【質問側（聴衆）】、【回答側（発表者）】の双方とっても学びにつながる!

- ▲▲と考察していますが、■■のようにも考えられませんか? 【別解釈の提示】
- スライド●表1とスライド●図3は、▲▲の関連がありませんか? 【新解釈の提示】